

さあ、チャレンジしてみよう

Let's try English!

Message FROM
Ben Gibson
Vol.98



Nakasendo—Part II

One sunny morning at the beginning of the rainy season, I started on my Nakasendo trip. It is about 375 km to Kyoto from Miyota, and I had many questions. Where could I sleep? How long would it take? Could I find vegetarian food to eat on the trip? It was both exciting and scary. About 8:00 in the morning, I said goodbye to Harold and started pedaling. I stopped briefly at a friend's house. He lives on the Nakasendo, and he wished me luck. I went down through Otai-juku, and eventually left Miyota.

I met a girl at Mochizuki

The weather was perfect, and I slowly went to through Saku, and then Asashina. Before I got to Mochizuki, I was looking at my maps, and a girl driving a jeep stopped to help me. I looked lost, and she wanted to help. She was very nice, and we talked a little. I told her about my trip, and that I liked old Japanese culture. She suggested that I go to an old sake distillery in Mochizuki. I thanked her, and started riding again. In Mochizuki I found the sake distillery, and looked around. They had a small museum, and I looked around at the local history. I also sampled some sake and ama-zake. I wanted to buy some souvenirs for my friends in Nara, but I was worried about carrying glass bottles. I got back on my bike, and started again.

I wanted to travel the original path...

Just outside of Mochizuki, I had a small lunch of onigiri and tea, and slowly went towards the mountains. I only had the tricycle for a short time, and I was learning how to ride it. I learned that it does not go up hills easily! I got off, and started pushing it up Wada pass. It was sunny, and I became quite hot. But the scenery was beautiful, and I enjoyed the walk. Eventually, the old Nakasendo leaves the main road, and becomes a mountain trail. I could not take the tricycle there. There was also a toll road and a tunnel going through the mountain. If I went that way, I could save some time, and even get to Shimo-Suwa by dinner! But I decided to go up the regular road. One reason was because I wanted to travel as closely to the original path as possible. Another reason was because the tunnel was very long, and the air would be very dirty. So I started pushing the tricycle uphill some more. I kept going up, wondering when I would reach the pass. It was late afternoon when I came to a small hut with a thatched roof. Some people were there, filling up water jugs from a spring there. I wanted to sleep in the hut, but they said that there were bears. They also said that the pass was only 30 minutes away, and if I walked quickly, I could cross the pass before dark. I went back on the road, but an hour passed, and it started to get dark, and I was still going up. So I pulled off the road, set up my tent, had a small dinner of nuts and onigiri, and fell asleep listening to the semi trucks going past.



中山道 パートII

ある夏の朝、梅雨の始めの頃 中山道の旅に出ました。御代田から京都まで約375キロの道のりで、わからないことが沢山ありました。どこで眠ろうか? いったいどのくらい日数がかかるのだろうか? ベジタリアンの食べ物を見つけるだろうか? それらはわくわくすることでもあり、また怖いことでもありました。朝の8時、私はハロルドにグッドバイを言い、ペダルを漕ぎ出しました。友人の家に ちょっと立ち寄りしました。彼は中山道沿いに住んでいて、幸運を祈ってくれました。私は小田井宿を通ってついに御代田を後にしました。

望月で若い女性に会って...

天気は完璧で、私は佐久と浅科をゆっくりと通り抜けました。望月に着く前に地図を見ていたら、ジープに乗っている若い女性が止まりました。私は道に迷った様でしたが、彼女は助けてくれようとしたのでした。彼女はとても良い人で、私は少しおしゃべりしました。私は旅のことを話し、日本の古い文化が好きだと言いました。彼女は私に望月の古い造り酒屋に行くよう勧めました。私はお礼を言い、また三輪車に乗りました。望月でその造り酒屋を見つけ辺りを見回しました。そこには小さな博物館があり地元の歴史がわかりました。お酒と甘酒の試飲もさせてもらいました。奈良にいる友人達のお土産にしたかったのですが、瓶を運ぶのが気になりました。三輪車に戻って出発しました。

旧道を旅したくて...

望月を出たあたりで、おにぎりとお茶で軽い昼食をすませ、ゆっくりと山の方に向かいました。三輪車に乗り始めてあまり経っていないので、乗り方を練習しました。坂は容易に登れないことがわかりました。三輪車を降り、和道の道押し始めました。天気が良くとても暑くなりましたが、景色は美しく私は歩くことを楽しんでいました。ついに、旧中山道は道路を離れ、山道になりました。そこには三輪車では行けません。そこには山を貫く有料道路とトンネルもありました。その道を行けば、時間の節約になる夕食までには下諏訪へ着けます。でも、普通の道に行くことに決めました。できるだけ本来の道に忠実な旅をしたかったのです。もうひとつの理由は、トンネルがとても長いので、空気がかなり汚れていると思ったからです。それで、三輪車をまた押して坂を歩きました。私は、いつになったら道にたどり着けるのだろうと思いつつ、登り続けました。藁葺き屋根の小さな小屋に着いたのは、午後遅くなってからでした。そこに何人かいて、泉から水を入れ物に汲んでいました。私は小屋で眠りたかったのですが、熊が出るので早歩きして、30分くらい行けば道があるのではと早歩きは暗くなるまでに道を横断できると言われました。それで道路に出たのですが、もう一時間は過ぎていて、暗くなりかけていました。再び登り続けました。そんなわけで、私は通りを外れテントを広げてナッツとおにぎりのささやかな夕食をとり、大型トラックの行き交う音を聞きながら眠りに就いたのでした。

俳句

当季雑詠

| | |
|-----------------|-------|
| 立冬や介護疲れにモーツアルト | 清水 慶子 |
| 忘れもの靴につめて秋の旅 | 澤田 勝彦 |
| 落葉松の透けて街の灯冬に入る | 石田 彰男 |
| 王の御稜威黄菊渦巻くタイランド | 足立 淳 |
| 落葉松の枝差し交す冬日影 | 五嶋 不二 |

| | |
|----------------------------|-------|
| 立ちのぼる噴煙おだし初春の天空に仰ぐ浅間の雄姿 | 吉田 倉子 |
| 暦など信じざる身がよき運とあれば待たるるあらたまの年 | 桑原アヤ子 |
| 新春の光差し入る川の面に去年の落葉は浮きて流るる | 桜井みさを |

短歌

「短歌の会」と「御代田風の道俳句会」から寄せられた代表作品です。

短歌・俳句で綴る御代田の四季



Sports 第6回御代田町小学生ドッチビー大会

第6回御代田町小学生ドッチビー大会が、B&G 海洋センターで12月2日に行なわれました。みなさんは、ドッチビーがどんなスポーツかご存じですか?簡単に言うと、ドッチボールとルールもほぼ同じで、ボールの代わりにフリスビーの様なビニールとウレタンでできたディスクと呼ばれる物を使います。ドッチビーの面白いところは、ボールとは違うディスクの予想できない動きにあります。また、ディスクは軟らかい素材で作られているので、当たってもあまり痛くなく、つき指などのケガの心配もありません。さて、大会は、南北小学校の他に、佐久市から泉小学校も参加し、合計40チームで行われました。体育館がいっぱいになってしまう程の応援。その中で、選手は優勝めざしてがんばりました。応援していたお父さんが一言「私が子どもの代わりにやりたい!」。選手も監督も応援している人も盛り上がる楽しい大会でした。



Man Watching #79

安いといいですね。保育料がもつと

Q1 趣味は?
手芸・お菓子づくり...そして、それを食べること

Q2 おすすめスポットは?
軽井沢「熊野神社の見晴台」

Q3 理想の人は?
優しく子ども好きの人

Q4 夢・目標は?
いつか、第二の故郷オーストラリアでのんびり暮らしたい。目標は、歳をとっても、子どもと力いっぱい遊べる保育士、子どもとしっかり向き合える母親になることです。

Q5 まちづくりに一言
子育てしながら働くお母さんたちが、様々な面で、もっと安心して子どもを預け、働けるようになるといいですね。